

日時:平成22年9月2日(木)17:00~17:15

場所:総務大臣室

議題:○報告事項その他

・JPエクスプレス社統合に係る遅配事故の原因について

○渡辺副大臣

お疲れ様でございます。それでは政務三役会議をただいまから始めます。大臣、よろしく願います。

○原口大臣

お疲れ様です。昨日は防災の日ということで、それぞれお疲れ様でございました。私は総理を始め防災担当大臣、防衛大臣ともに副大臣の地元の伊東へ自衛隊のヘリで市ヶ谷を飛び立って、そして3、40分ですかね、行きました。静岡県、非常に県を挙げて、伊東市も市民を挙げての非常に地域に根ざした防災訓練をなさっていました。必ず来るという防災に対してどのように備えるかということでありました。その中でも一部防災無線が入らないとかですね、実際に訓練や現場に行ってみると、様々な課題も明らかになりました。今日は埼玉県の防災ヘリの墜落事故で亡くなった5名の方の合同告別式に私、政府を代表して行ってまいりました。お父さんどこにいるの、という声ですね、告別式会場に、子どもさんの声が響いて、そして、涙を誘っていました。32歳、33歳という方もいらして、さぞや心残りだったと思います。消防の仕事は命の危険と隣り合わせといいながらも本当に尊い人命をここでなくしたこと、埼玉県は非常に選り抜かれた人たちがそこに志願をしてくられていました。まだ原因は分かっていません。原因を究明して、そして、二度とこういう事がないように、それから様々な器具やあるいは消防、防災ヘリ、これ、昨年だけで30名以上の方々の、直接的に命を、もしこれがなければ奪われていた命を助けた人たちでありました。今回、予算編成の過程で安心安全にということをやっています。本当に真剣にこの方々を支え、最前線にいらっしゃる方々をエンパワーできるということ、そういう仕組みを一刻も早く作ってください。それから、この後、防災担当大臣の話をしませんが、7時に発災して、そして30分後までにいわゆる事務方が全部入って、1時間20分後に私達、閣僚が集合という形になっています。もちろん、その前に私はこのオペレーション室、即入るということですから、それでも昔のやり方からすれば相当早くなったんだということですが、実際に総理会見までに120分のラグがあるわけです。120分のラグをどういうふうに考えるのかということも、併せて検討を今、指示をしているところでございまして、政務三役におかれましては、情報化社会の中における災害情報の流し方ということについてもしっかりと御議論をいただきたいと思っております。これが1点目。

それから2点目が経済対策です。閣議に出されたものについてですね、いくつか私達は10日までの間にバージョンアップをしたいと思っております。3つの面でバージョンアップしていきます。1つは地域の安心安全、それから地域の活性化という視点です。もう一つはICTです。どうしてもICTの文言がなかなかこう表に出てこない。雇用ということを言うにしろ、ICTのイノベーションにおける雇用といったことも非常に大事であります。エコポイントやそういったものが切れるといったことについても、とても深刻な影響を与えてはなりませんので、そのところを配慮した予算、それから3点目は何と言っても私達は昨日も南部アフリカのそれぞれの大臣とお話をしましたけれども、4大臣と。外に日本の技術を開いてやらないと当面のデフレ対策という文言がございましてけれどもデフレはこの長い長期に渡って進んできたもので、当面何かをやって改善できるものと、構造を変えて改善すべきものと、この2つがありますのでその辺

のところをしっかりと踏まえた予算、予備費の使い方ということにして下さい。9, 200億のうちの大層を私達がしっかりと国民に届けるということを意識してやっていただきたいと思います。もう直に補正予算の議論、国会の中でもご議論いただいているようでございますのでその事についても、いきなり代表選を待ってどうのこうのという形には私はならないと思います。もっと今すぐにでもですね、準備をしておかなきゃならない。それをやるかやらないかのご判断をされるのは国会であり、次のリーダーですけれども、そのリーダーが今の経済に対してどう思うかということも大事ですけれども、私達自身がもう地域の事を知っている訳ですから、それに基づいた対策の準備ということを今日明確にご要請申し上げたいと思います。私の方からは以上です。

○渡辺副大臣

はい、よろしいですか。はいそれでは協議事項は今日はございませんが、この機会にありますか。はい、それでは報告事項へ。それでは長谷川政務官は。

○内藤副大臣

長谷川さんがまだいらしていない。

○渡辺副大臣

それ以外で何かございますでしょうか。到着を待つて。

○原口大臣

あなたが今やっていること。

○渡辺副大臣

はい、今大臣からお話がありました安心・安全、特に総務省では消防庁の分野についてございました、具体的に言いますとですね、今お話がありましたけれどもヘリコプターのいろいろシステムについての支援という話でございます。ただこれ経済対策の中で現実問題として、もっと現場の声を聞いたのか、現場からやっぱりいろいろニーズが上がってきているもので、例えばこれがあればもっと活動を安心して出来るなというものが現場の声を聞いたかという事でちょっと差し替えましてですね、そうしたところが、例えばですね、これまだあの今日の提示された中身ですけれども、例えば放射性事故、放射能が原発があるような地域で事故があった場合に、これを感知する機械を実は原発が所在するところでも、1つや2つはありますけれども周辺自治体でも消防本部は持っていないということで、実は現場で消防の皆さんが集まられると消防の会議ではこういうものがあれば、もし何かあった場合には我々現場に行くことが可能になるのになという声があるようです。例えばそういう声を今大事にして、そういう今まで必要とされるような機材をもう少し幅広く、今回なら例えば考えたらどうだろうかと、またそのヘリの例えば装備についてはですね、今話があったようにいろんな補正予算等の話が出てきた時にはですね、何れにしてもこれは時間のかかる話でございますので9, 200億円という予算は実はご存知のとおり予備費ですから、年度内に執行できなければいけないと。繰越明許は許されないということですから、その物理的制約のもとで、今、必要とされるものをやったらどうかということ、消防の方と会計の方には、いろいろ議論をしているところでございます。やっぱり、現場の、できるだけ市町村消防本部にいる現場の方々が、こういう資機材があったらありがたいということです。できれば、そういう経済波及効果を起こすようなものが考えられないかという話をしています。まあ、一つの例ですけれども。

○原口大臣

消防の件で逢坂さん、地元の首長さんをやって、一番不足というか、もっとこういうものがあればというのは何ですか。

○逢坂総理補佐官

今、一番ニーズが高いのは救急なんです。本当のことを言うと、ちょっと経済対策には向かないかもしれないですが、人員なんです。これを何とかしないと。それから、高規格救急自動車。これは非常に要望が強いと思うんです。

○渡辺副大臣

一つまた報告ですが、今、消防庁とも話をしてたんですけども、事業仕分けにもかかっている日本消防設備安全センターというのがあるのですが、この手数料を引き下げるという話です。実は、この手数料と併せてカリキュラムを見直せと、同じようなものをいくつもやっているとということで、パブリックコメントを出すにあたって、講習科目の共通可能なものを持ってきました。最大で58%の時間数削減、平均で36%の削減とか共通化できると。ところがこれ、新聞等でも一部報道されましたけれども、資格者講習というのがですね、3日間やっただけで3万3千円、4日間で4万5千円とべらぼうに高い。しかもですね、受講が終わったら受講証というのが3千円払って別にね、受講証受け取るときは3千円別にですね、申し受けるというシステムになってまして、これは高すぎるだろう。

○原口大臣

それは何に使うの。

○渡辺副大臣

これ、例えば防火管理講習というビル管理や警備の専門業者に向けて講習をするというもので、これ、中身自体は必要だと思います。ただ、同じような類似のものを合理化できないかと言ったら、時間数の節約はできるということですね。ただ、ここにかかる講習会の費用というのがまさに高くてですね、講師の謝礼だとかあるいはテキストの金額だとか、こういうものを一つ一つ聞いておきまして、私達はこうした国が決めた定めに従って、たとえ講習費用が10万円でも受けなければならない。だけれども、この値段だと言われれば、受けざるを得ない。そういうものに対してやはり私は切り込まないと、やっぱり黙って業者が泣いているような高いコスト構造を我々は見直していかなければいけない。なお、事業仕分けのものもありましたので、取り組んでいて、それでちょっと遅れたわけです。今、じゃ、政務官。

○原口大臣

ありがとうございます。

○長谷川大臣政務官

総合科学技術会議に出ていたものですから、質問がいっぱい出まして遅くなりまして、申し訳ありませんでした。

今日の報告はJPエクスプレスの解散に伴ってゆうパック事業に全部統合すると、7月1日から行われたわけでございますけれども、そのときに大きな遅配事故が起きました。で、実際になぜあれだけの混乱が起きたのかと、色々説明があるわけですけど、なかなか腑に落ちないということもありますし、大臣のほうからは本当に年末に向けて大丈夫なのかという御下問がありましたので、実際に現場に行

って見て参りました。ご存じのとおり、私は元郵政の職員だったものですから、自分の目で見ると、これはやはり計画段階から相当色々と問題があったなという風に思わざるをえませんでした。その事の報告をさせていただきます。

行きましたのは、埼玉ターミナルと言われている、元々は日通の施設、日本通運の施設でございます。そこで、この事業を今行われているわけでありまして、そもそもですね、例えば発着台の高さが日通の10トン車の高さに合わせてできてるわけですね。そこへ郵政の8トン車とか4トン車という、もう全然規格がそもそも違う、扱っているパレットの大きさも違う、というようなものが着いたときにですね、従来どおりの発着ができないものですから、小さい車から荷物を降ろすためにですね、下駄を履かせるっていう、角材を斜めに切ったようなものを使いまして、そこへタイヤを載せて全体を持ち上げて降ろすとかですね、いろんな工夫をしてるんですけど、それに手間がかかる。それから、降ろせる場所も従来と違って限定されてくる。そのために車の回し方も変わってですね、従来車が通ることを想定していないような狭い通路を通ってこないといけないとかですね、そもそも全体の流れをやっぱりちゃんと気がついて計画を立てていたとは思えないようなことが、いっぱい見受けられました。

今もう、その支店長さんは代わっておられて、今は非常にそういうことを良く知ってる人が来ているわけですが、前の人の方の経歴を調べてみたらですね、やっぱりそういう大規模な操作などは今までやったことがない、普通の郵便局の郵便の管理者の方が来ておられたとかですね、というようなことがいろいろ分かりまして、やっぱり現場で実際どういうふうに行われていくのかというようなことがですね、本社の段階が直接監督しているわけですが、本社にちゃんと伝わらない。現場でもあまり意識がない。本社の方もそういうところに問題意識があるということを気が付いていない。本当は中間に支社という組織があって、そこがそういうことを全部やるわけですが、支社に権限が今は渡されていなくてですね、無用の長物というか、ほとんど本社と現場が直通でやるような仕組みになっているというところに大変大きな問題があると。

端的に申し上げますと、7月1日以前は、一日トラックが200台着いていたわけですがけれども、その後、7月1日からは460台着いているんというんですね、倍を超えるトラックが着いて、作業場は誠に狭いわけでございまして、それに加えて、さきほど言った規格の違いもあると。そもそもの原因は、そういう水と油みたいなものをいっぺんにくっつけるということを考えた人が悪いわけですが、それにしても計画があまりにもずさんであったし、そういう問題が起きるであろうということを予測できなかった体制に問題がある、ということが分かってまいりました。

そこで、現場軽視、支社軽視、あるいは、営業という商売の部分だけじゃなくて、仕事をそうやって流していく、郵便物というのはものが流れるわけですから、ものの流れについてのプロの養成というようなことができていなかった。これは公社から民営化通じてずっと行われてきたことのように思います。それから、何が原因かというのはなかなか特定しにくいんですけども、現場で分かったことがぱっとこう上に上がっていかない、何か淀んだ雰囲気のような、非常に風通しが悪い、みんながなんかそのものを言うのを躊躇しているような雰囲気というのが見えまして、体質的に非常に弱体化しているということを強く感じたところでございます。この点については、先般ガバナンス委員会の報告に会社の幹部がお見えになった時に、こういったことも改善をしなければならんというようなことを併せて言っておられましたので、会社も同じ事に気がついているというふうに思いましたから、そこは救われた訳でありますけれどももしっかりこれからも私どもも助言をしていきたいと思っております。

なお、この私のみた現場に関しましては、今いる支店長さんが非常に問題点的確に把握をしております。年末に向けてすべて対策を打って計画を作って今本社とも話をしているということでありまして、大変安心できる中身でありますので、他で問題が起きた所ですね同様の問題を抱えている身でございますので引き続きフォローしていきたいと思っております。以上です。

○原口大臣

やっぱり問題点を的確に把握しそしてそれを共有することは解決の中の一番大事なことですけどそれを言うと飛ばされたり、今政務官おっしゃられたように人事の機能とか教育の機能を極端に落としてそして現場を差配したりする人たちを非正規、経験のない人たちにしたりというふうにいる、この間持ち株の役員の方々もこられて報告をいただきました。ずいぶんあの今までの古い強圧的な手法に対して非常に危機感を持って刷新するんだという強い意志をお示しをいただきました。なお見守って行きたいと思います。

○長谷川大臣政務官

よろしくお願いいたします。

○渡辺副大臣

はい、そのほか報告事項等ございますでしょうか。よろしいですか。はいそれでは三役会議を予定より早く終わります。

終了